

# 鳥取県における古墳時代から古代にかけての甗の出現と変遷

横 山 聖

## 一 論 文 要 旨 一

鳥取県は中国地方の日本海側を面し、山陰地方の東側に位置する。律令体制下、鳥取県は因幡国と伯耆国に分けられ、日本海を介した他地域との交流が行われていたと考えられる。著者が発掘調査に関わった山手森谷上分遺跡は、鳥取市河原町郷原に所在し、古墳時代後期前半の竪穴建物跡から須恵器の甗と考えられる底部が出土した。

甗と長銅甕、移動式カマドを使用した調理法は古墳時代中期に伝えられ、それぞれの器形の形態は地域性がみられるとされている。今回、鳥取県内の遺跡から出土する甗を集成し、出土時期について調べた。因幡地方は古墳時代中期後葉まで遡る可能性が推測され、伯耆地方は古墳時代中期中頃または後半から出土し始め、両地方とも古墳時代後期に入ると出土数が増加する傾向がみられた。また、底部の蒸気孔の形態を比較したところ、各地方で差異が確認できた。さらに、把手の形状や接合方法でも故地である朝鮮半島の制作技法が一部維持されたものと考えられた。鳥取県内において古墳時代中期から古代にかけて河川や内海を中心に日本海岸等を介して各地域と交流が行われ、当時の因幡地方や伯耆地方の人々に受け入れられていった様子が窺えた。

キーワード：甗、須恵器、土師器、鳥取県、因幡地方、伯耆地方

## 1. はじめに

鳥取県は中国地方の日本海側を面し、山陰地方の東側に位置する。律令体制下、鳥取県は因幡国と伯耆国に分けられ、日本海を介した他地域との交流が行われていたと考えられている。

著者が発掘調査に関わった山手森谷上分遺跡は、鳥取市河原町郷原に所在し、古墳時代後期前半の竪穴建物跡から須恵器の甑と考えられる底部が出土した<sup>(1)</sup>。甑<sup>(2)</sup>と長胴甕と移動式カマドを使用した調理方法は古墳時代中期に伝えられたと考えられ、甑や蒸気孔の形態は地域性があることは指摘されている。

今回、鳥取県内から出土する甑を集成し、分布と出土する時期を調べ、蒸気孔の形態や把手の形態、接合方法、法量等の検討を行った。

## 2. 研究抄史

甑の研究については、その特徴的な形態に注目され古くから研究が行われている。今回、取り扱う主に古墳時代を中心に出土する甑については、柿沼幹夫氏が南関東地方の弥生時代後期から古代前半までの土器を検討する中で主要なものとして扱っている(柿沼1976)。また、笹森紀己氏は竈を持つ住居跡からの出土数が多いことに注目し、「蒸す」という調理方法が加わったことを指摘している(笹森1982)。この他にも、新たな調理方法の受け入れは、5世紀における日本のやきもの文化、生

活文化の大きな画期にあたとされ、朝鮮半島や中国との関連性が指摘されている(宇野1999・亀田2003)。

朝鮮半島の甑の様相については、酒井清治氏や土田純子氏が取り上げ(酒井1988・土田2015)、杉井健氏も日本列島から出土する甑の様相を検討する中で触れている(杉井1999)。山陰地域の甑については、岩橋考典氏が山陰地域の土製支脚や移動式竈を検討する中で取り上げ(岩橋2003)、高橋浩二氏も日本海地域の土器の様相を検討する中で触れている(高橋2011)。

近年、鳥取県は鳥取西道路の開発事業によって発掘調査事例が増加しており、それに伴い遺物の出土例も増加している。そこで、鳥取県内の甑を集成し、出土時期の傾向や形態の特徴について検討を行うことで、古墳時代から古代における甑や鳥取県の考古学研究の一助になればと思う。

## 3. 鳥取県内における甑の様相

鳥取県内における甑の出土例を集成した結果、甑が出土する遺跡の性格は、主に集落遺跡を中心でその他に古墳や窯跡等でも出土する。出土する遺構はほとんどが遺構外であるが、住居跡や土坑、溝状遺構等から出土する。

甑は、比較的土師器が多くわずかに須恵器も出土している。甑の口縁部は、基本的に直線的に延びるか外反し、須恵器は端部で肥厚する場合もある。次に土師器の甑の調整技法は、外面はハケ目が施され、内面はヘラ削りが多くハケ目調整もみられる。須恵器の甑は、基本的

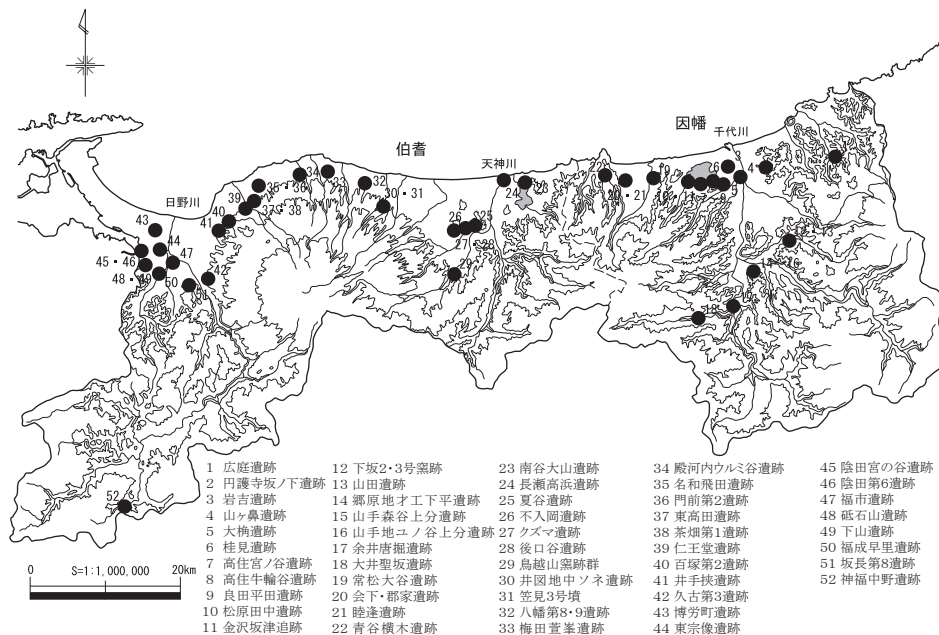


図1 鳥取県内の主な甑出土遺跡 (S=1/1,000,000)  
(山陰中世考古学研究会から提供して頂いた地図を編集)

に両面ともロクロナデ調整で、外面にカキ目が施される場合もある。また体部に沈線が廻る場合もみられる。把手の形状は基本的に牛角状を呈し、接合方法は貼り付けるか体部を穿孔後、把手を挿入する。底部の蒸気孔の形態は様々である。底部の蒸気孔の形態は、杉井健氏が行った形態分類模式図を参考にする（図2）。

### （1）因幡地方

因幡地方は、鳥取県の東部にあたり、ほぼ中央部に千代川が北流し下流域に鳥取平野が形成される。律令体制下以前の政治的中心地は、古墳の分布などから千代川下流域の鳥取平野の南端山麓と考えられる。古墳時代中期から後期にあたる大型古墳が柵間1号墳や布勢古墳など湖山池周辺の山麓部に築造される。

#### ① 因幡東部地域

因幡東部地域は、現在の鳥取市の東部や岩美郡の周辺地域にあたる。律令体制下は、巨濃郡や邑美郡、法美郡に属した地域である。

この地域で甗が出土するのは古墳時代後期に入ってからで、円護寺坂ノ下遺跡の住居跡から甗が出土している（図3-1）。土師器で底部の蒸気孔の形態はつつぬけタイプである。把手はみられない。また遺構外であるが、広庭遺跡から須恵器の甗が出土している（図3-2）。底部の蒸気孔の形態は、多孔タイプで高台がみられ、把手は隔離する。

#### ② 湖山池周辺地域

湖山池周辺地域は律令体制下高草郡に属し、因幡地域で最も多く甗が出土した地域である。この地域で甗が出土するのは古墳時代後期に入ってからであるが、大柵遺跡で検出された古墳時代中期後葉から古墳時代中期末に比定される流路から土師器の把手が出土しており、古墳時代中期まで遡る可能性が推測される。

高住牛輪谷遺跡の6世紀後半から7世紀初頭に比定される土器溜りから甗が出土している（図3-3）。底部の蒸気孔の形態はつつぬけタイプである。また遺構外であるが、良質な資料として土師器と須恵器の甗が出土している（図3-4・5・6・7）。（4）は土師器で、底

部の蒸気孔の形態はつつぬけタイプで把手はみられない。（5）は土師器で底部の蒸気孔の形態は側面に棧渡し用の小円孔を穿つ。（6）は須恵器で底部の蒸気孔の形態は、一部欠損しているが底部に棧が2本あるものと推測される。（7）は土師器で体部を欠き、底部の蒸気孔の形態は多数タイプである。

松原田中遺跡の古墳時代後期に比定される溝状遺構から土師器の甗が出土している（図3-8）。次に、岩吉遺跡の古代に比定される遺構から須恵器の甗が出土している（図3-9）。把手の上に突帯が廻り、底部は平底で蒸気孔の形態は多重タイプである。この他に、桂見遺跡の土器溜りから土師器の甗が出土している（図3-10・11）。（10）と（11）は、形態や調整技法が類似すると思われるが量が異なっている。底部の蒸気孔の形態は、底部に粘土による棧が1本みられる。また遺構外であるが、良田平田遺跡から多数タイプの土師器の甗が出土し（図3-12）、金沢坂津遺跡でも類似する甗が出土している。この他にも、高住宮ノ谷遺跡や山ヶ鼻遺跡等の遺跡でも甗が出土している。

#### ③ 因幡南部地域

因幡南部地域は、現在の鳥取市河原町や八頭郡、智頭郡等の周辺地域にあたる。律令体制下は、八上郡や知頭郡に属した地域である。この地域の特徴として、比較的須恵器の甗が多く出土している。

この地域で甗がみられるのは古墳時代後期に入ってからで、山手森谷上分遺跡の住居跡から須恵器の甗が出土している（図3-13）。体部は欠き、外面はタタキで内面は同心円文がみられる。底端部にはヘラ削りがみられることから穿孔が施されていると考えられる。次に、郷原地才工下遺跡の6世紀前半の住居跡から土師器の甗が出土し、底部の蒸気孔の形態は多重タイプを呈する（図3-14）。大井聖坂遺跡の7世紀末から8世紀初頭に比定される住居跡から須恵器の甗が出土している（図3-15）。下坂2・3号窯跡の8世紀と比定される盛土から須恵器の甗が出土している（図3-16）。体部は欠き、底部は平底で蒸気孔の形態は多重タイプである。須恵器で底部が平底の甗は、同地域の山田遺跡でも出土し

スノコ支え有り					スノコ支え無し		
多孔		棧渡し			単孔		
多数	多重	一重	粘土による棧	棧渡し用小円孔	棧受け用窪み	小円孔	つつぬけ

図2 蒸気孔の形態分類模式図  
（杉井健1999「甗形土器の地域性」図3より）



- 1 : 円護寺坂ノ下遺跡
- 2 : 広庭遺跡
- 3・4・5・6・7 : 高住牛輪谷遺跡
- 8 : 松原田中遺跡
- 9 : 岩吉遺跡
- 10・11 : 桂見遺跡
- 12 : 良田平田遺跡
- 13 : 山手森谷上分遺跡
- 14 : 郷原地才工下平遺跡
- 15 : 大井聖坂遺跡
- 16 : 下坂窯跡群
- 17・18 : 常松大谷遺跡
- 19 : 青谷横木遺跡

図3 因幡地方の主な出土甗



ており、供給されていた可能性が推測される。この他にも、高住牛輪谷遺跡でみられた多重タイプの甗に比定される甗が山手地ユノ谷上分遺跡からも出土している。また、余井唐堀遺跡等の遺跡でも土師器の甗が出土している。

#### ④ 因幡西部地域

因幡西部地域は、現在の鳥取市鹿野町と気高町、青谷町周辺地域にあたる。律令体制下は気多郡に属し多地域である。この地域で甗がみられるのは古墳時代後期に入ってからで、常松大谷遺跡の土器溜りから土師器の甗が出土し、底部の蒸気孔の形態は側面に浅渡し用の小円孔を穿つ(図3-17)。また、8世紀に比定される流路からも甗が出土している(図3-18)。須恵器で底部の蒸気孔の形態は、底部に棧が2本あるものと推測される。また、青谷横木遺跡の古代に比定される河道から甗が出土している(図3-19)。この他にも、会下・郡家遺跡や陸逢遺跡等でも把手が出土しており、甗の可能性が推測される。

### (2) 東伯耆地方

東伯耆地方は、鳥取県の中央部にあたり天神川が北流し、下流域には倉吉平野が形成される。政治的中心地は、古墳の分布等から天神川下流域の平野部と考えられる。この地方の甗は、底部の蒸気孔の形態が比較的につつぬけタイプが多くみられる。

#### ① 日本海沿岸地域

日本海沿岸地域は、現在の東伯耆郡湯梨浜町や琴浦町、北栄町等の日本海沿岸地域にあたる。律令体制下は、八橋郡及び河村郡と久米郡の北部に属した地域である。

この地域で甗が見られるのは古墳時代中期後半に入ってからで、梅田萱峯遺跡の住居跡から土師器の甗が出土している。この甗に形態や調整技法が類似する甗が同

遺跡の土坑から出土しており、底部の蒸気孔の形態はつつぬけタイプである(図4-1)。この他に、井岡地中ソネ遺跡の古墳時代後期前葉に比定される住居跡から土師器の甗が出土している(図4-2)。底部は欠き、把手はみられない。また、終末期にあたる笠見3号墳の盛土からも土師器の甗が出土している。この他にも八幡第8・9遺跡や長瀬高浜遺跡等の遺跡でも土師器の甗が出土している。

#### ② 天神川下流域周辺地域

天神川下流域周辺地域は、天神川下流域に形成される倉吉平野周辺地域にあたる。律令体制下は久米郡に属した地域である。

不入岡遺跡から出土している土師器の甗が鳥取県内で最も古い例である(図4-3)。古墳時代中期中頃に比定されるオンドル住居跡から出土し、底部の蒸気孔の形態は多重タイプである。この他に、夏谷遺跡の古墳時代中期後半にあたる大壁建物跡から土師器の把手が出土しており、甗の可能性が推測される。

古墳時代後期に入ると、甗の出土数が増加する傾向がみられる。鳥越山窯跡群の6世紀に比定される灰原から須恵器の甗が出土している(図4-4)。また遺構外であるが、南谷大山遺跡から土師器の甗が出土している(図4-5)。この他にも、クズマ遺跡や後口谷遺跡等の遺跡でも土師器の把手が出土している。

### (3) 西伯耆地方

西伯耆地方は、鳥取県の西部にあたり日野川が北流する。下流域に米子平野が形成され、北西部には弓浜半島の大砂州が延びる。政治的中心地は、古墳の分布等から日野川下流域の平野部及び大山北西麓と考えられる。西伯耆地方は、鳥取県内で甗が最も多く出土している地域で、底部の蒸気孔の形態が比較的につつぬけタイプのも

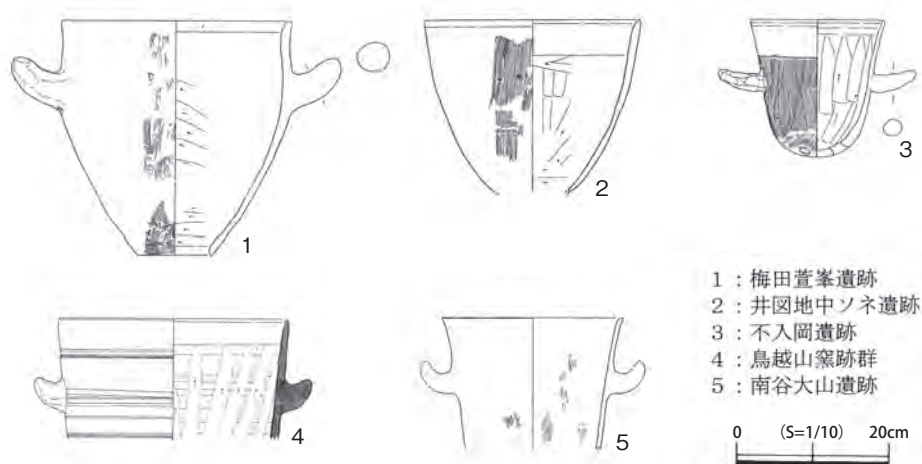


図4 東伯耆地方の主な出土甗

のと側面に棧渡し用の小円孔を穿つものが多い。

① 日本海沿岸地域

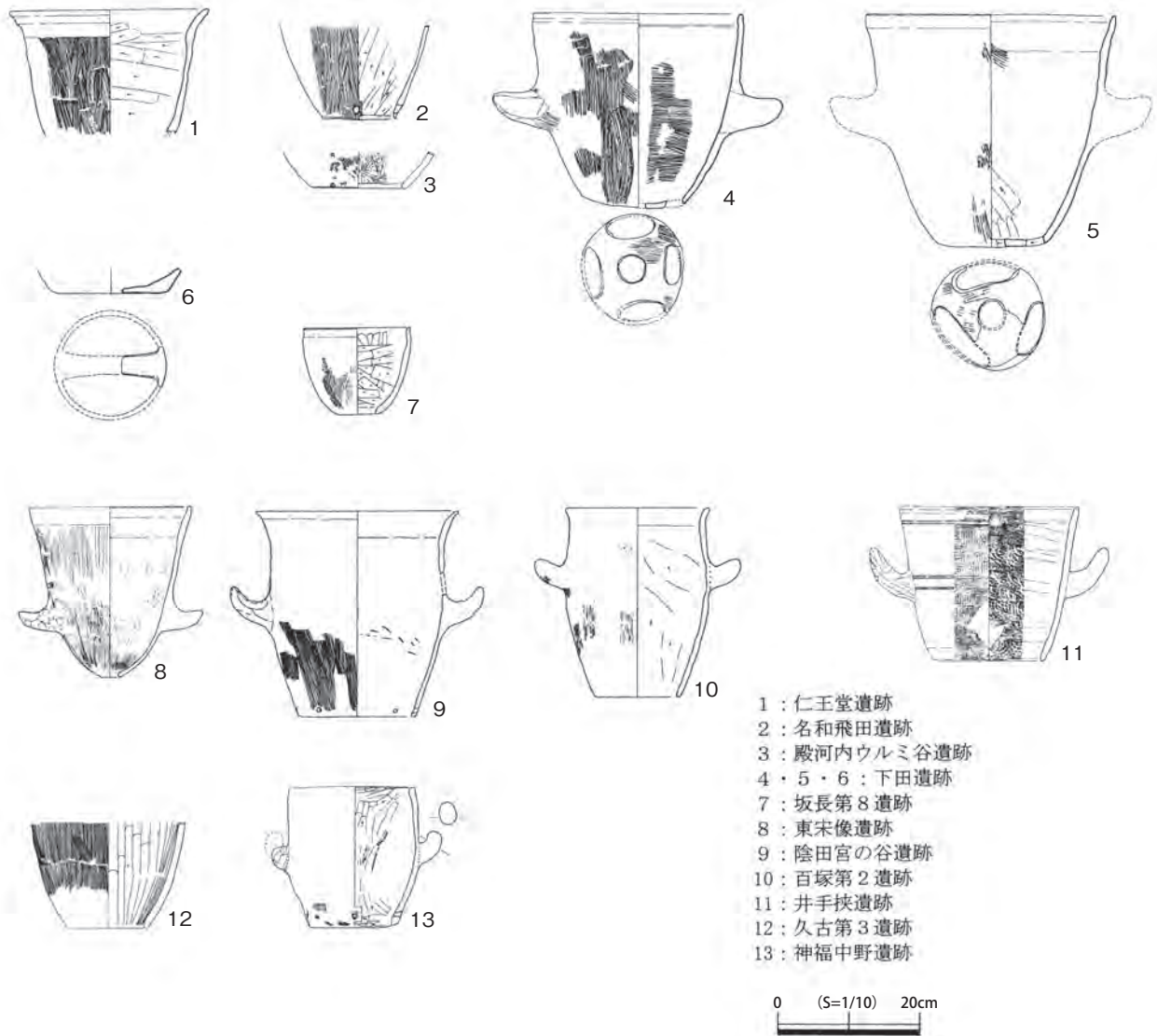
日本海沿岸地域は、現在の西伯郡大山町にあたる。律令体制下は汗入郡に属した地域である。この地域で甑が出土するのは古墳時代後期に入ってからで、仁王堂遺跡や東高田遺跡の6世紀に比定される住居跡から土師器の把手が出土している。また遺構外であるが、仁王堂遺跡から土師器の甑も出土している(図5-1)。後期後半になると甑の出土数が増加する傾向がみられ、名和飛田遺跡の後期末に比定される住居跡から出土し、底部の蒸気孔の形態は側面に棧渡し用の小円孔を穿つ(図5-2)。また遺構外であるが、殿河内ウルミ谷遺跡から底部の蒸気孔がつつぬけタイプの甑が出土している(図5-3)。この他にも、門前第2遺跡や茶畑第1遺跡等でも土師器の把手が出土しており、甑の可能性が推測さ

れる。

② 日野川下流域周辺地域

日野川下流域周辺地域は、現在の米子市の平野部にあたる。律令体制下は会見郡に属し、特に多くの甑が出土している地域である。この地域では古墳時代中期後葉に入ってからで、砥石山遺跡の建物跡から出土している。また遺構外であるが、周辺の下山遺跡から様々な甑が出土している(図5-4・5・6)。

(4)と(5)は土師器で、底部の蒸気孔の形態は一重タイプである。(6)は土師器で、体部を欠き底部の蒸気孔の形態は棧が1本みられる。この他に、この時期に坂長第8遺跡の住居跡でも土師器の甑が出土している(図5-7)。底部の蒸気孔の形態はつつぬけタイプで把手はみられない。この地域でも古墳時代後期になると、甑の出土数が増加する傾向がみられる。東宋像遺跡では



- 1 : 仁王堂遺跡
- 2 : 名和飛田遺跡
- 3 : 殿河内ウルミ谷遺跡
- 4・5・6 : 下山遺跡
- 7 : 坂長第8遺跡
- 8 : 東宋像遺跡
- 9 : 陰田宮の谷遺跡
- 10 : 百塚第2遺跡
- 11 : 井手挾遺跡
- 12 : 久古第3遺跡
- 13 : 神福中野遺跡

図5 西伯耆地方の主な出土甑

6世紀中葉から6世紀後葉に比定される木棺墓から土師器の甗が出土している(図5-8)。底部の蒸気孔の形態が小円孔である。これとほぼ同時期に、博労町遺跡の住居跡から土師器の甗が出土し、底部の蒸気孔の形態は多重タイプである。

陰田宮ノ谷遺跡の6世紀後半から7世紀初頭に比定されるテラス状遺構から土師器の甗は出土している(図5-9)。底部の蒸気孔の形態は側面に棧渡し用の小円孔を穿つ。これとほぼ同時期に、百塚第2遺跡から土師器の甗が出土し、底部の蒸気孔の形態は全孔である(図5-10)。また、陰田第6遺跡の住居跡から赤彩が施された甗が出土している。同遺跡の他の遺構からも赤彩が施された把手が出土しており、甗の可能性が考えられる。また、井手挾遺跡の溝状遺構から須恵器の甗が出土しており、古墳時代後期に比定されている(図5-11)。外面はタタキ目が施され、内面は同心円文痕の後、ロクロナデ調整がみられる。この他にも、福成早里遺跡や福市遺跡等の遺跡でも甗が出土している。

### ③ 西伯耆南部地域

西伯耆南部地域は、現在の西伯郡伯耆町と日野郡にあたる。律令体制下は日野郡に属した地域である。この地域では、久古第3遺跡の6世紀後半に比定される住居跡から出土する土師器の甗が最も早い例で、体部は欠き、底部の蒸気孔はつつぬけタイプである(図5-12)。この他に、神福中野遺跡の8世紀に比定される住居跡から土師器の甗が出土している(図5-13)。底部の蒸気孔の形態は側面に棧渡し用の小円孔を穿つ。

## 4. 考察

今回、鳥取県内の甗を集成した結果、因幡地方は古墳時代中期後葉まで遡る可能性が推測されるが、基本的には古墳時代後期になる出土数が増加する傾向がみられる。伯耆地方は古墳時代中期中頃または後半から出土し始め、同じく古墳時代後期になると出土数が増加する傾向がみられる。また、須恵器の甗は因幡地方では生産された可能性が推測され、東伯耆地方では生産されていたと考えられる。次に、蒸気孔の形態や把手の形態、接合方法、法量等について検討する。

### (1) 蒸気孔の形態

はじめに、県内でみられる甗の蒸気孔の形態を整理する。まず、鳥取県内全体で多く確認することが出来た甗は、つつぬけタイプと側面に棧渡し用小円孔を穿つタイプである。これらのタイプと底部に棧が1本を有するタイプは、近畿や吉備、九州、山陰、関東、東北地方などのほぼ全国的にみられる形態であるとされる(亀田2003)。また、5世紀後半段階には九州や山陰、関東、

東北などの地域でつつぬけタイプのものが見られると指摘されており同様の結果となっている。

因幡地方は、前述したタイプの他に、多数タイプのものや一重タイプのものなど様々な蒸気孔の形態がみられた。伯耆地域と比較しても因幡地域は様々な形態がみられると言える。因幡地方でみられた多数タイプの甗は、大阪府の安威遺跡や奈良県の南郷千部遺跡、岡山県の高塚遺跡でも出土しており、土師器の甗を加工した甗と想定されている(寺井2015)。この他に、須恵器で把手を持つ平底の多孔タイプの甗は、和泉地方にみられ、古墳時代中期から後期にかけて東海地方にひろがり、奈良時代に入ると関東・東北地方まで波及するとされている(堀田1970)。また、古代以降の須恵器の多孔タイプの甗は新羅でもみられる形態である<sup>(3)</sup>。

次に東伯耆地方は、基本的につつぬけタイプのものが多い。ただし、鳥取県内で最も早い段階にみられる不入岡遺跡から出土する甗のみ多重タイプであった。この甗は朝鮮半島南東部の伽耶地域の系統のもと考えられ(片岡2016)、オンドル住居跡は伽耶地域からの渡来人・渡来系の人々の住居と考えられている(亀田2020)。さらに、不入岡遺跡周辺には大壁建物跡が検出されており朝鮮半島の影響を強く受けていることがわかる。

西伯耆地方は、基本的につつぬけタイプのものと側面に棧渡し用小円孔を穿つタイプが多かった。ただし、下山遺跡のみで一重タイプや底部に棧を1本有するタイプがみられ、一重タイプの甗は島根県の夫敷遺跡や近畿地方で確認されている。

### (2) 法量<sup>(4)</sup>

法量をみてみると地域ごとの差異はみられない。県内の甗は、口径及び器高が20cmを超えるものがほとんどで、わずかに15cm前後の小型の甗がみられる。この小型の甗は、弥生時代後期の鉢形有孔土器の影響を受けているものと想定され、九州地方北部地域や中部地方東部地域などでもみられるようである。さらに、このような小型の甗と古墳時代中期以降にみられる甗とお互いに影響を与え合っていると指摘されている。

### (3) 把手の形態と接合方法

把手の形態や接合方法について検討する前に把手がみられない甗が県内で点数みられたことに注目したい。この把手を持たない甗は、点数は少ないものの県内から出土する。把手を持たない甗は、東日本東部地域で多く出土することが指摘されている(杉井1993)。また、北部九州地域でも出土するようである。

県内の甗の把手の形態は基本的に牛角状を呈し、把手はナデ付けで接合される。ただし、体部に穿孔の後、把手を挿入しナデ付ける接合方法もみられる。さらに、須



恵器の甑の体部に沈線が施されるものもみられる。これらは朝鮮半島の甑にみられる要素として指摘されており(寺井2016), 故地である朝鮮半島の制作技法が一部維持されたものと想定される。

## 5. おわりに

以上, 鳥取県内出土の甑を集成し検討を行った。県内でみられる甑は, 基本的につつぬけタイプと側面に棧渡し用小円孔を穿つタイプであった。底部の蒸気孔の形態から, 因幡地方に様々な形態がみられた。とくに, 湖山池周辺と因幡南部地域の八上郡周辺が中心で, 湖山池周辺は湖山池を介した交流が背景にあったと考える<sup>(5)</sup>。また八上郡周辺は, 朝鮮系考古資料がまとまっている地域として指摘されており(亀田2014), その影響で様々な蒸気孔の形態を持つ甑がみられたのではないだろうか。

一方, 伯耆地方では不入岡遺跡の多重タイプの甑や, 砥石山遺跡と周辺遺跡で一重タイプや棧を有する甑がみられ, 時期差があるが, 一部の地域単位で, 朝鮮半島南東部の伽耶地域や他の地域からの影響で受け入れられたと考えられる。この他にも, 笠見3号墳の盛土等から赤彩が施された甑や東宗像遺跡の木棺墓からも甑が出土しており, 埋葬や祭祀または儀礼に用いられていた可能性が考えられる。このように, 今回鳥取県内の甑を集成したことで, 古墳時代中期から古代にかけて河川や内海を中心に日本海岸等を介して各地域と交流が行われ, 当時の因幡地方や伯耆地方の人々に受け入れられていった様子が窺えた。

今後は鳥取県内だけでなく, 周辺地域の広い範囲での集成を行い検討したいと思う。また, 甑が各地域に受け入れられた社会的背景についても検討する必要があるだろう。最後に, すべての遺物を実見することが出来なかったことは課題としたい。

## 謝辞

この小稿を執筆するにあたって, 岡山理科大学の亀田修一先生に資料収集・情報提供・執筆に関して御指導・御意見を頂き, 大変お世話になりました。

その他にも下記の方々からも執筆にあたり, 資料調査等のお世話になりました。末筆ながら記して謝意を表したい。大変失礼ながら敬称は省略させて頂いた(五十音順)。

神谷伊鈴, 佐伯純也, 田中正利, 谷口恭子, 玉木秀幸, 濱橋博子, 東方仁史, 平山晃基, 山田真宏, 岡山理科大学地理考古学研究会, 鳥取県埋蔵文化財センター, 鳥取市教育委員会, 鳥取市埋蔵文化財センター, 米子市埋蔵文化財センター

## 付記

最後になりましたが, 亀田修一先生の退官を心からお祝いさせていただきます。先生には学生の頃から社会人になっても御指導・ご教示頂き, 大変お世話になっております。つたない文章ではありますが, 贈呈させて頂くとともに, 亀田先生の今後ますますの御活躍を祈願致しております。また, 小稿を作成する機会を与えて下さった岡山理科大学の先生方にも深謝しております。

## 註

- (1) 底端部にヘラ削りがみられ, 底部に穿孔が施されていると考える。県内の須恵器の甑を実見し, 制作技法から全孔タイプ以外の棧がみられる甑または多孔の甑ではないかと考えている。
- (2) 取り扱う甑は, 基本的には古墳時代中期からみられる大型甑と呼ばれる多孔甑である(今回は「大型」を付けず, この多孔甑の系列のものをそのまま「甑」と呼ぶ)。
- (3) 亀田先生の御教示による。
- (4) 表に記した法量は復元された数値も含まれている。
- (5) 湖山池は中世まで日本海とつながった内海であったと考えている(錦織2013)。湖山池南岸から南東岸地域は数多くの集落遺跡や古墳群が確認されており, 湖山池を利用した交流が行われていたものと考えられる。

表1 鳥取県内出土の甑の法量

旧郡名	遺跡名	図番号	器種	法量 (cm)		掲載文献
				口径	器高	
邑美郡	円護寺坂ノ下遺跡	8-20	土師器	26.7	25.4	谷口恭子ほか 2000
		82-42	土師器	31.4	-	
	広庭遺跡	37-129	須恵器	23.5	23.1	岩美町教委 1989
高草郡	山ヶ鼻遺跡	42-1	土師器	21.3	-	谷口恭子ほか 1996
	桂見遺跡	105-153	土師器	18.6	18.9	牧本哲雄ほか 1996
		105-154	土師器	29.5	26.9	
	良田平田遺跡	212-852	土師器	17.7	-	高尾浩司ほか 2014
	高住宮ノ谷遺跡	125-71	土師器	27.6	-	茶谷満ほか 2017
	高住牛輪谷遺跡	127-207	土師器	16.2	14.4	野口良也ほか 2014
		66-94	土師器	27.3	30.4	
		187-292	土師器	27.9	-	
		193-347	土師器	27.0	28.0	
	松原田中遺跡	64-63	土師器	17.6	-	本間元樹ほか 2018
239-901		土師器	24.0	-		
岩吉遺跡	71-108	須恵器	34.8	31.9	山田真宏 1997	
高住牛輪谷遺跡	66-95	須恵器	24.4	22.0	東方仁史ほか 2014	
八上郡	郷原地才工下平遺跡	8-4	土師器	26.9	-	谷口恭子ほか 2007
知頭郡	大井聖坂遺跡	30-32	須恵器	27.5	-	谷口恭子ほか 2005
気多郡	常松大谷遺跡	65-39	土師器	26.4	24.8	西山昌考ほか 2016
	青谷横木遺跡	426-1013	土師器	12.6	-	濱隆造ほか 2018
久米郡	不入岡遺跡	40-34	土師器	17.4	18.0	倉吉市教委 1995



鳥取県における古墳時代から古代にかけての甗の出現と変遷

旧郡名	遺跡名	図番号	器種	法量 (cm)		掲載文献
				口径	器高	
久米郡	鳥越山窯跡群	18-163	須恵器	29.6	-	根鈴智津子 2008
河村郡	南谷大山遺跡	142-9	土師器	23.6	-	勸鳥取県教育文化財団 1994a
八橋郡	井岡地中ソネ遺跡	190-285	土師器	28.4	-	倉吉市教委 1995
	上伊勢第1遺跡	46-155	土師器	21.0	18.7	玉木秀幸ほか 2005
	鮎津乳葉母ヶ谷第2遺跡	54-88	土師器	26.3	-	小口英一郎ほか 2007
	梅田峯遺跡	65-265 112-322	土師器 土師器	28.6 30.0	- 21.2	牧本哲雄ほか 2009
汗入郡	仁王堂遺跡	53-166	土師器	26.8	-	大山町教委 1991
		53-167	土師器	24.1	-	
		53-168	土師器	27.2	-	
		53-169	土師器	23.8	-	
		53-170	土師器	28.8	-	
		53-171	土師器	21.7	-	
会見郡	福成早里遺跡	37-87	土師器	16.0	-	北浦弘人ほか 1998
		38-102	土師器	26.8	27.2	
		47-157	土師器	27.6	-	
		50-162	土師器	27.8	-	
		51-163	土師器	24.4	-	
		51-172	土師器	28.0	-	
		54-201	土師器	20.1	-	
		56-251	土師器	24.2	-	
	坂長第8遺跡	53-18	土師器	14.8	12.4	玉木秀幸 2016
	博労町遺跡	388-79	土師器	26.7	-	平木裕子ほか 2011
		427-143	土師器	26.7	28.0	
	砥石山遺跡	132-11	土師器	23.8	-	勸米子市教育文化事業団 1994
	下山遺跡	172-1	土師器	22.2	20.7	
		172-2	土師器	26.6	24.6	
		172-4	土師器	24.2	25.2	
		172-5	土師器	25.8	-	
		172-6	土師器	29.4	25.0	
		172-7	土師器	29.6	25.1	
		173-1	土師器	29.8	-	
		173-2	土師器	14.6	-	
		173-3	土師器	20.8	-	
		173-5	土師器	22.4	-	
	173-6	土師器	22.2	-		
	陰田第6遺跡	68-153	土師器	29.4	-	北浦弘人ほか 1996
	83-281	土師器	29.2	-		
	陰田荒神谷遺跡	344-1319	土師器	21.5	-	濱田竜彦ほか 1997
	陰田宮の谷遺跡	23-20 23-21	土師器 土師器	23.0 23.0	- -	
	百塚第5遺跡	37-129	土師器	30.8	-	原田雄弘ほか 1995
		46-159	土師器	23.0	-	
	長砂第3遺跡	60-550	土師器	29.4	31.2	平木裕子ほか 1998
		12-57	土師器	27.8	-	
	大下畑遺跡	13-48	土師器	24.0	-	勸鳥取県教育文化財団 1994b
32-63		土師器	20.0	16.7		
百塚第2遺跡	32-63	土師器	20.0	16.7	淀江町教委 1997	
古市カハラケ遺跡	24-128	土師器	27.2	-	中森祥ほか 1999	
東宋象遺跡	234-3	土師器	22.8	23.9	勸鳥取県教育文化財団 1985	
	235-18	土師器	23.8	-		
青木遺跡	29-29	土師器	28.2	-	鳥取県教委 1977	
青木稲場遺跡	26-370	土師器	22.0	-	平木裕子 2000	
	26-371	土師器	20.0	-		

旧郡名	遺跡名	図番号	器種	法量 (cm)		掲載文献	
				口径	器高		
会見郡	福市遺跡	52-146	土師器	17.6	-	平木裕子 2000	
		52-147	土師器	35.0	-		
		55-172	土師器	23.2	-		
		57-191	土師器	26.4	24.0		
会見郡	陰田第6遺跡	75-174	須恵器	25.6	-	北浦弘人ほか 1996	
	井手鉄遺跡	19-10	須恵器	24.6	21.6	淀江町教委 1987	
日野郡	神福中野遺跡	22-17	土師器	17.2	19.8	日南町教委 2010	
		久古第3遺跡	13-10	土師器	24.6	-	勸鳥取県教育文化財団 1984
			34-1	土師器	25.8	24.9	

参考文献 (五十音順)

岩橋考典 2003 「山陰地域の古墳時代後期～奈良時代の炊飯具について」『古代文化研究』第11号 鳥根県古代文化センター

岩美町教育委員会 1989 『広庭遺跡』

宇野隆夫 1999 「古墳時代中・後期における食器・調理法の革新」『日本考古学』第7号 日本考古学協会

小口英一郎ほか 2004 『八幡第8・9遺跡』鳥取県教育文化財団埋蔵文化財センター

小口英一郎ほか 2007 『鮎津乳葉母ヶ谷第2遺跡Ⅱ』鳥取県埋蔵文化財センター

柿沼幹夫 1976 「甗形土器に関する一考察」『埼玉考古』15 埼玉考古学会

片岡啓介ほか 2016 「不入岡遺跡出土古墳時代渡来系遺物の再検討」『調査研究紀要』7 鳥取県埋蔵文化財センター

亀田修一 2003 「古墳時代中期・後期の土器」『考古資料大観』第3巻 小学館

亀田修一 2014 「福本70号墳の銅匙が語るもの」『福本70号墳発掘調査報告書』八頭町教育委員会

亀田修一 2020 「列島各地の渡来系文化・渡来人」吉村武彦ほか編『渡来系移住民』岩波書店

北浦弘人ほか 1996 『陰田遺跡群』財団法人鳥取県教育文化財団鳥取県埋蔵文化財センター

北浦弘人ほか 1998 『福成早里遺跡』財団法人鳥取県教育文化財団鳥取県埋蔵文化財センター

北浩明ほか 2005 『名和飛田遺跡(菖蒲田地区)』財団法人鳥取県教育文化財団埋蔵文化財センター

気高町教育委員会 1982 『気高町埋蔵文化財発掘調査報告書-睦逢遺跡-』

君嶋俊行ほか 2003 『井岡地頭遺跡・井岡地中ソネ遺跡』財団法人鳥取県教育文化財団鳥取県埋蔵文化財センター

倉吉市教育委員会 1995 『不入岡遺跡発掘調査報告書』

倉吉市教育委員会 2003 『クズマ遺跡第3次調査報告書』

倉吉博物館 1994 『発掘された倉吉の歴史』

郡家町教育委員会 1988 『下坂窯跡群』

財団法人鳥取県教育文化財団 1983 『長瀬高浜遺跡発掘調査報告書Ⅵ』

財団法人鳥取県教育文化財団 1984 『久古第3遺跡・貝田原遺跡・林原遺跡発掘調査報告書』

- 財団法人鳥取県教育文化財団 1985『東宗象遺跡』
- 財団法人鳥取県教育文化財団 1994a『南谷大山遺跡Ⅱ・南谷29号墳』
- 財団法人鳥取県教育文化財団 1994b『大下畑遺跡』
- 財団法人米子市教育文化事業団 1994『萱原・奥陰田Ⅰ』
- 佐伯博光ほか 2015『常松大谷遺跡Ⅰ』公益財団法人鳥取県教育文化財団調査室
- 酒井清治 1998「日韓の甑の系譜から見た渡来人」『楯崎彰一先生古希記念論文集』楯崎彰一先生古希記念論文集刊行会
- 笹森紀己子 1982「かまど出現の背景」『古代』72 早稲田大学考古学会
- 佐原真 1987「煮るか蒸すか」『飲食史林』第7号 飲食史林刊行会
- 鳥取県教育委員会 1989『国道9号線バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅵ（夫敷遺跡）』
- 杉井健 1993「竈の地域性とその背景」『考古学研究』第40巻第1号 考古学研究会
- 杉井健 1999「甑形土器の地域性」『国家形成期の考古学－大阪大学考古学研究室10周年記念論集－』大阪大学考古学研究室
- 杉井健 2016「須恵器甑にみられる朝鮮半島の要素」『大阪歴史博物館 研究紀要』第14号 大阪歴史博物館
- 外山政子 1987「甑について」『研究紀要』第4号 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 外山政子 1989「群馬県地域の土師器甑について」『研究紀要』第6号 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 大栄町教育委員会 1985a『上種第5遺跡発掘調査報告』
- 大栄町教育委員会 1985b『上種第6遺跡発掘調査報告』
- 大山町教育委員会 1991『仁天堂遺跡』
- 高尾浩司ほか 2014『良田平田遺跡』公益財団法人鳥取県教育文化財団
- 高橋浩二 2011「土師器の編年⑥日本海」『古墳時代の考古学1古墳時代史の枠組み』(株)同成社
- 谷口恭子ほか 1996『山ヶ鼻遺跡Ⅱ』財団法人鳥取市教育福祉振興会
- 谷口恭子ほか 2000『円護寺坂ノ下遺跡』財団法人鳥取市文化財団
- 谷口恭子ほか 2005『大井聖坂遺跡・大井家ノ下遺跡』財団法人鳥取市文化財団
- 谷口恭子ほか 2007『郷原地才工下平遺跡』財団法人鳥取市文化財団
- 玉木秀幸ほか 2005『上伊勢第1遺跡・三保第1遺跡』財団法人鳥取県教育文化財団鳥取県埋蔵文化財センター
- 玉木秀幸 2016『坂長第7遺跡2・坂長第8遺跡3』財団法人鳥取県教育文化財団調査室
- 茶谷満ほか 2017『高住宮ノ谷遺跡』公益財団法人鳥取県教育文化財団
- 土田純子 2015「馬韓・百濟地域出土煮炊器の変遷」『韓式系土器研究』XV 韓式系土器研究会
- 寺井誠 2015「土師器甕を加工した甑」『大阪歴史博物館研究紀要』第13号 大阪歴史博物館
- 寺井誠 2016「須恵器甑に見られる朝鮮半島の要素」『大阪歴史博物館研究紀要』第14号 大阪歴史博物館
- 鳥取県教育委員会 1977『青木遺跡Ⅱ』
- 鳥取県立公文書館県史編さん室 2020『新鳥取県史（資料編）考古2古墳時代』鳥取県
- 中村倉司 1989「関東地方における竈・大型甑・須恵器出現の地域差」『研究紀要』第6号 財団法人埼玉県埋蔵文化財埋蔵文化財調査事業団
- 中森祥ほか 1999『古市遺跡Ⅰ』財団法人鳥取県教育文化財団鳥取県埋蔵文化財センター
- 名和町教育委員会 1991『東高田遺跡発掘調査報告書』
- 西川徹ほか 2004『茶畑遺跡群』財団法人鳥取県教育文化財団埋蔵文化財センター
- 錦織勤 2013『古代中世の因伯の交通』鳥取県立公文書館
- 西山昌考ほか 2016『常松大谷遺跡Ⅱ』公益財団法人鳥取県教育文化財団調査室
- 日南町教育委員会 2010『神福中野遺跡発掘調査報告書』
- 根鈴智津子 2008『鳥越山窯跡群発掘調査報告書』倉吉市教育委員会
- 野口良也ほか 2014『高住牛輪谷遺跡Ⅰ』公益財団法人鳥取県教育文化財団調査室
- 野田大和ほか 2013『山田遺跡』八頭町教育委員会
- 濱隆造ほか 2018『青谷横木遺跡』鳥取県埋蔵文化財センター
- 濱田竜彦ほか 1997『陰田第6遺跡・陰田宮の谷遺跡3区・4区』財団法人米子市文化事業団埋蔵文化財調査室
- 原田雄弘ほか 1995『百塚第5遺跡・小波狭間谷遺跡・泉上経前遺跡』財団法人鳥取県教育文化財団鳥取県埋蔵文化財センター
- 原田雅弘ほか 2018『会下・郡家遺跡』鳥取県埋蔵文化財センター
- 東方仁史ほか 2014『高住牛輪谷遺跡Ⅱ』公益財団法人鳥取県教育文化財団
- 東方仁史ほか 2018『高住牛輪谷遺跡Ⅱ』公益財団法人鳥取県教育文化財団調査室
- 平木裕子ほか 1998『長砂3・4遺跡』財団法人米子市文化事業団埋蔵文化財調査室
- 平木裕子 2000『青木稲場遺跡・福市遺跡』財団法人米子市教育文化事業団埋蔵文化財調査室
- 平木裕子ほか 2011『博労町遺跡』財団法人米子市文化事業団埋蔵文化財調査室
- 堀田啓一 1970「日本上代の甑について」『日本古文化論攷』吉川弘文館
- 水村直人ほか 2017『大桝遺跡Ⅰ』公益財団法人鳥取県教育文化財団調査室
- 堀田啓一 1970「日本上代の甑について」『日本古文化論攷』吉川弘文館
- 本間元樹ほか 2018『松原田中遺跡Ⅲ』公益財団法人鳥取県教育文化財団
- 牧本哲雄ほか 1996『桂見遺跡－ハッ割地区・堤谷東地区・堤谷西地区－』財団法人鳥取県教育文化財団鳥取県埋蔵文化財センター
- 牧本哲雄ほか 2004『笠見第3遺跡』財団法人鳥取県教育文化財団鳥取県埋蔵文化財センター
- 牧本哲雄ほか 2007『門前第2遺跡』鳥取県埋蔵文化財センター
- 牧本哲雄ほか 2009『梅田萱峯遺跡Ⅴ』鳥取県埋蔵文化財センター

牧本哲雄ほか 2014『殿河内ウルミ谷遺跡』鳥取県埋蔵文化財センター  
 用瀬町教育委員会 1993『余井唐堀遺跡発掘調査報告書』  
 森下哲哉ほか 1996『夏谷遺跡発掘調査報告書』倉吉市教育委員会  
 山田真宏 1997『岩吉遺跡Ⅳ』財団法人鳥取市教育福祉振興会  
 山田真宏 2018『山手地ユノ谷上分遺跡』公益財団法人鳥取市文化財団  
 備平凡社地方資料センター 1992『鳥取県の地名』  
 横山聖 2020『山手森谷上分遺跡』公益財団法人鳥取市文化財団  
 淀江町教育委員会 1987『井手鉢遺跡発掘調査報告書』  
 淀江町教育委員会 1991『大下畑遺跡・小波原畑遺跡発掘調査報告書』  
 淀江町教育委員会 1997『百塚遺跡群Ⅶ』

### 引用挿図

図3-1：谷口恭子ほか 2000 第8図20  
 図3-2：岩美町教育委員会 1989 第37図129  
 図3-3：東方仁史ほか 2018 第193図347  
 図3-4：野口良也ほか 2014 第127図207  
 図3-5：東方仁史ほか 2018 第66図94  
 図3-6：東方仁史ほか 2018 第66図95  
 図3-7：東方仁史ほか 2018 第195図369  
 図3-8：本間元樹ほか 2018 第64図63  
 図3-9：山田真宏 1997 第71図108  
 図3-10：牧本哲雄ほか 1996 第105図153  
 図3-11：牧本哲雄ほか 1996 第105図154  
 図3-12：高尾浩司ほか 2014 第212図852  
 図3-13：横山聖 2020 第9図26

図3-14：谷口恭子ほか 2007 第8図4  
 図3-15：谷口恭子ほか 2005 第30図32  
 図3-16：郡家町教育委員会 1988 第41図50  
 図3-17：西山昌考ほか 2016 第65図39  
 図3-18：佐伯博光ほか 2015 第50図44  
 図3-19：濱隆造ほか 2018 第426図1013  
 図4-1：牧本哲雄ほか 2009 第112図322  
 図4-2：君嶋俊行ほか 2003 第190図285  
 図4-3：倉吉市教育委員会 1995 第40図34  
 図4-4：根鈴智津子 2008 第18図163  
 図4-5：財団法人鳥取県教育文化財団 1994 第142図9  
 図5-1：大山町教育委員会 1991 第53図166  
 図5-2：北浦弘人ほか 1996 第46図187  
 図5-3：牧本哲雄ほか 2014 第37図87  
 図5-4：財団法人米子市教育文化事業団 1994 第172図1  
 図5-5：財団法人米子市教育文化事業団 1994 第172図2  
 図5-6：財団法人米子市教育文化事業団 1994 第172図3  
 図5-7：玉木秀幸 2016 第53図18  
 図5-8：財団法人鳥取県教育文化財団 1985 第234図3  
 図5-9：濱田竜彦ほか 1997 第23図20  
 図5-10：淀江町教育委員会 1997 第32図63  
 図5-11：淀江町教育委員会 1987 第19図10  
 図5-12：財団法人鳥取県教育文化財団 1984 第13図7  
 図5-13：日南町教育委員会 2010 第22図17

### 【勤務先】

〒680-0007 鳥取市湯所町1丁目148-2  
 鳥取市埋蔵文化財センター